

## 第 1 回 生田緑地ビジョン推進会議（令和 4 年 7 月 29 日）

## 議事概要と論点整理

## 1. 生田緑地ビジョンの改定に向けて

## ■ 保全と利用の好循環の取組

→ 資料 5

- ・保全と利用の好循環ということ、国の動きを先取りし、生田緑地ならではのビジョンができたのではないか。理念的にはそんなに大きく変わらなくてもよいのでは。（垣内委員）

## ■ 生田緑地の自然と人とのかかわり方を整理

→ 資料 5

- ・ビジョンの改定にあたり、生田緑地の自然と人とのかかわり方を見直す必要があることを加えてほしい。（倉本委員）

## ■ 基本理念の表現等についても、必要に応じ柔軟に修正

→ 資料 5

- ・（基本理念、基本方針は変更せず、取組の視点、施策の基本方向を改定する方針案に対し）基本理念の内容は大きく変えないとしても、状況に合わせて言葉を変えていくこともありうる。（薬袋委員）

## ■ ビジョン策定後の各施策の成果と課題を整理

→ 資料 5

- ・生田緑地ビジョンの成果や課題を分析し、さらに先へ進んでほしい。（金子委員）

## ■ 収益性を上げる取組について指定管理者と協議

→ 資料 3

- ・生田緑地ビジョンに示された経営的な観点について、収益性を上げる取組をさらに進めるようにしてほしい。（金子委員）

## ■ 現況利用状況調査、利用者アンケート調査、関係者へのヒアリング調査を実施

→ 資料 3

- ・生田緑地の現状がどうなっているか、現場の状況を把握する必要がある。（金子委員）
- ・生田緑地にかかわる人の声と目線を大事にすべき。（金子委員）
- ・民間活力をさらに活用していくため、指定管理者制度導入の効果を検証・分析してほしい。（金子委員）

## ■ コロナ禍における利用状況を調査

→ 資料 3

- ・コロナ禍における公園緑地の価値が再評価されているなかで、新しい生活様式の観点から生田緑地をどう位置付けていくのか。（金子委員）

## ■ 生田緑地ビジョンを市民が「自分ごと化」するための取組を検討

→ 資料 5

- ・生田緑地は市民にとって大事な緑の拠点であるため、市民の間で共有できる生田緑地ビジョンにしてほしい。（金子委員）
- ・SDGs の一般化を踏まえて、市民全員が生田緑地にかかわる意識を持つような方向を目指してほしい。（金子委員）

## 2. 植生管理について

## ■ 植生管理の現状と課題点について関係者へのヒアリング調査を実施

→ 資料 3

- ・植生管理計画の実行性に課題があり、計画の通り実行できている活動団体は現状ではほとんどない。（倉本委員）
- ・ナラ枯れ被害が顕在化しており、従来の管理を継続しては10～50年後にナラ枯れ被害が再発すると予想される。かつての里山のように、人が自然を利用し続け、若い雑木林を維持することが有効なナラ枯れ対策となる。（倉本委員）
- ・里山から得られる木材等の多様な資源を利用する、販売するなどの仕組みをつくる必要がある。（倉本委員）

- ・日本民家園では、植生管理の発生材で木工品などをつくり販売する活動を行っている。発生材を文化的に活用する活動を持続可能にする仕組みをつくる必要がある。（垣内委員）

- ・令和時代の里山、雑木林とのつき合い方を地域と一緒に考える必要がある。（薬袋委員）

## 3. 文化を介した連携について

## ■ 文化と地域や自然を連携する取組について指定管理者にヒアリング調査を実施

→ 資料 3

- ・アートとコミュニティの可能性を切り開く新たな展開に期待している。コミュニティの課題を文化的な手法を用いて解決に導く。自然豊かな空間とアートの親和性を活用し、市民活動と連携しつつ実践的なプログラムを開催する。登戸駅や向ヶ丘遊園駅にまでつなげていけるよう全体を見ながら応援する。（橋委員）
- ・歴史、文化、芸術にも「利用することで守る」はあてはまる。（橋委員）
- ・「利用と保全の好循環」は文化でもまったく同じで、文化を享受しながら守り育てる好循環をつくる必要がある。文化振興は、まちづくりや産業、教育、福祉等、様々な分野に波及する。2017年改正「文化芸術基本法」では、より積極的に周辺と連携する「新たな公」との連携が謳われている。（垣内委員）
- ・指定管理者制度導入後もミュージアムの専門分野は学芸員が担っている。アウトリーチ活動など、一般市民や児童等を呼び込むためミュージアムの外に出ていく活動も盛んに行っている。（垣内委員）
- ・文化の「利用と保全の好循環」がうまくまわり始めているので、基本理念は大きくは変えなくてよい。緑地と文化の魅力を合せ、さらに地域ともうまく運動させたい。（垣内委員）

## 4. 地域との連携について

## ■ 地域との連携の取組について指定管理者へのヒアリング調査を実施

→ 資料 3

- ・改定の最大のポイントは地域との連携をさらに充実させること。（薬袋委員・橋委員）
- ・周辺の自然とのつながりを深め生田緑地をよりよくしていく。（薬袋委員）
- ・新たな担い手を育成するためにも、地域との連携は大事。（薬袋委員）
- ・今は自然や地形とのかかわり方を変えていく時代。周辺住民の方々には、生田緑地を正しく理解のうえ、災害予想時に適切な行動をしていただく必要がある。（薬袋委員）
- ・指定管理者が自らの広報宣伝媒体やネットワークを使い地域の商店街や町内会と連携した広報を展開しており、シナジー効果が得られている。（垣内委員）
- ・消費を交流ツールとして地元との連携を顕在化できたらいい。（垣内委員）
- ・周辺地域との連携による取組、施設間連携での取組をさらに深めてほしい。（金子委員）

## 5. マネジメント会議について

## ■ 課題点や今後の展望についてマネジメント会議にヒアリング調査を実施

→ 資料 3

- ・マネジメント会議の現状と今後の展開について整理してほしい。（垣内委員）
- ・マネジメント会議の創設は先進的であった。さらにうまくいくために、何が足りないのかを追求してさらなる発展を目指してほしい。（金子委員）

## 6. 回遊性の向上について

## ■ 上位・関連計画とこれまでの取組を整理

→ 資料 5

- ・生田緑地の主要施設をつなぐ内側の回遊性と、生田緑地と地元商店街や最寄り駅をつなぐ外側の回遊性について、課題と解決手法を整理してほしい。（垣内委員）

## 7. 施設の老朽化対策について

## ■ 施設の老朽化対策について整理

→ 資料 3

- ・施設の老朽化対策について課題と今後の展開について整理してほしい。（垣内委員）

## 8. 生田緑地ビジョン推進会議の進め方について

## ■ 可能な範囲で関連計画の進捗を伝える

→ 資料 4

- ・向ヶ丘遊園跡地の開発計画について可能な範囲で進捗を伝えてほしい。（垣内委員）